

ことば遊びのおもしろさ

石津 ちひろ

■ ちいさなストーリーを添える

——石津ちひろさんは、ことば遊び、なかでも回文の名手
でいらっしやいますが、実際に子どもたちと回文で遊ぶ機
会がありますか？

小学校へ講演に行って、子どもたちに「知ってる回文は
ある？」と聞くと、「トマト！」「しんぶんし！」と、元氣
よく答えてくれます。そのあと、その場で作ってみせるこ
ともあります。好きな動物や花の名前を入れて作ってみよ
うか、と言うと、たとえば「犬！」とリクエストしてくれ
ます。そこで作った回文は、それだけ言うのではなく、短
いちよつとしたストーリーを添えるんです。

「犬は自分が速く走れるところを見せたがるの。人が歩い
ても、別の犬が歩いてても、すぐ抜いてっちゃう……ぬ
いたいぬ」というふうに。

次のクラスでも、再び「犬」がお題にあがると、同じこ
とは言いたくないんです。

「きょうみたいに暑い日には、上着をぬぎたくなくてしょ。

犬だって毛皮をぬぎなくなっちゃうの……ぬいだいぬ」

さっきと同じかどうかなんて、だれもチェックしていな
いのに、自分のなかで、さっきとは変えなくちゃ、と思う。
落語家さんがマクラで同じこと言いたくなかったりするの
と同じかしら。

小学生の男の子だと、ふざけて「トイレ」と言う子もい
ます。

「トイレって、ふつうの温度のところにあるわよね。でも
たまに凍らせてるトイレがあるの……れいとうといれ」

もっと調子に乗って「ちんぴら」とか「アルマジロ」な
んて言う子もいます。

「ちんぴらって、けっこう危ない目にも遭うらしいの……
ちんぴらびんち」

「アルマジロがやってくると、路地からだれもいなくな
っちゃうんですって……ろじまるあきあるまじろ」

こんな感じで、できないということはあまりない。